



第40回日本小児皮膚科学会報告



2016.7/2-3 広島



① 乳児期の食物アレルギーと皮膚病変：

離乳食を早めに進めること、早期に皮膚の状態を改善させること（保湿剤や適切なステロイド）が重要。

② 食物アレルギーによる発疹の時の症状を和らげる薬物：

オロパタジン OD, アレロック OD, タリオン OD などの口の中ですみやかに溶けて吸収が早い薬物が良い。

③ TARC：アトピー性皮膚炎の病勢マーカー：

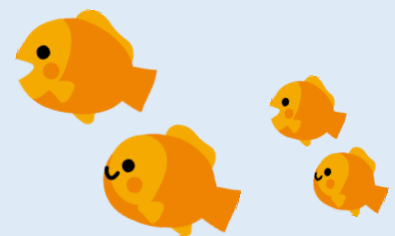
治療でアトピーが良くなるとともに数値が改善する。
（当院では現在行っておりませんが、導入を検討中です）



④ 単純性血管腫：

最近は＜毛細血管奇形＞に名称変更（まだ浸透していませんが）。レーザーの進歩が目覚ましく、ダイレーザーや V-beam がある。早期に治療した方が、効果が高い。2か月児でも適応がある。

（適切な医療機関を紹介しますので、ご相談ください。）



⑤ 扁平母斑：

長らくレーザー治療は効かないといわれていたが、アレックスレーザーで効果が出ることもある。小さいもの、辺縁がギザギザなもの、乳児期からの治療が効きやすい。



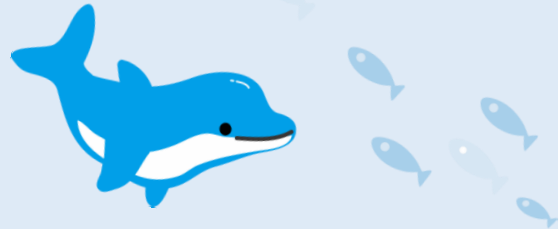


⑥ 花粉症と妊娠：

妊娠0-4週は all or none といわれ、正常胎児を得るか、流産するかのどちらか。薬物原因の奇形は実際には 1%以下。どうしても心配なら、妊娠がわかってから服薬を中止しても良い。抗ヒスタミン薬は基本的に妊娠中も OK だが、セルテクトは避けた方が無難。しかし、花粉症の症状で母体の体調が悪化するくらいなら、胎児への酸素不足のリスクもあるので服薬をお勧めします。

⑦ ヤクルト、乳酸菌、ビフィズス菌等（プロバイオティクスといいます）：

アトピー性皮膚炎予防に効果があるという報告があります。2歳までに経口抗生剤を使用する（短期間必要量使用する場合は除く）と上記菌が乱れ、7歳時点でのアレルギーが増えたとの報告あり。



⑧ 円形脱毛症の治療：

ステロイド局注、局所免疫療法がおこなわれているが、難治性。アトピー性皮膚炎が合併していることもある。塗り薬で効果が確認されているものはミノキシジル（リアップ）だけ。

⑨ 茶のしずく事件：

グルパール 19S という加水分解コムギが皮膚から侵入したため、アレルギー発症。はからずも、アレルゲンの経皮からの侵入が重大であることの証明になってしまった。

⑩ 50歳以上の魚アレルギー：

アニサキス（寄生虫）によるものが多いので要注意。



平井こどもクリニック 院長 平井克明

